

精神的ダメージの判断基準

子どもの言動の変化には意味があり、わずかな変化に気付くためにも、子どもの心を理解する必要があります。

子どもの精神的ダメージの判断基準

子どもの精神的なダメージは、生活場面での様々な変化に現れます。具体的な例として挙げられるのが「睡眠」、「食事の量」、「外出しているか」という点です。

犯罪や事故など危険な目に遭った子どもは、被害にあった際のフラッシュバックや悪夢を見るかもしれないという恐怖感で眠れなくなったり、そうした不安が原因で極端に食欲が低下、または増加することがあります。また、学校へ登校ができない、外へ遊びに行けないなど、外出が困難になることがあります。親や先生に甘えてまとわりつくことが多くなる、人に関わらなくなり、休み時間も一人でいるなど、人との関わり方が変化する子どももいます。

このような精神的な変化やダメージを知る方法として、子どもへのアンケートの実施があります。日常生活からわからなかった「体」、「気持ち」、「行動」の変化や症状を、アンケートの回答から読み取ることができます。アンケート結果を元に、子どもと一緒に子どもの状態を確認しましょう。

これらの変化を見つけ、対処するには、子どもを安心させる働きかけが大切です。一か月以上経過しても症状が変わらない、むしろ強まるなどといった場合には、専門的なカウンセラーにお願いするなどの対策が望ましいでしょう。

子どもへのアフターケア

犯罪被害後、多くの子どもは安心感を失っています。

まずは子どもの話をよく聞き、共感を示すなど、安心感を取り戻す働きかけが大切です。子どもの性格や個性などを含め、子どもの状態を理解したうえでケアをしていきます。また、そうした場面では、子ども自身に気持ちを表現させることも重要です。

規準表 <26a> 子どもの発達段階や心理などについて理解している。

<26b> 子どもへのカウンセリングの実際について理解し指導できる。

ねらい □□ ②子どもの心理状態を適切に把握し、その場に応じた対応ができる。

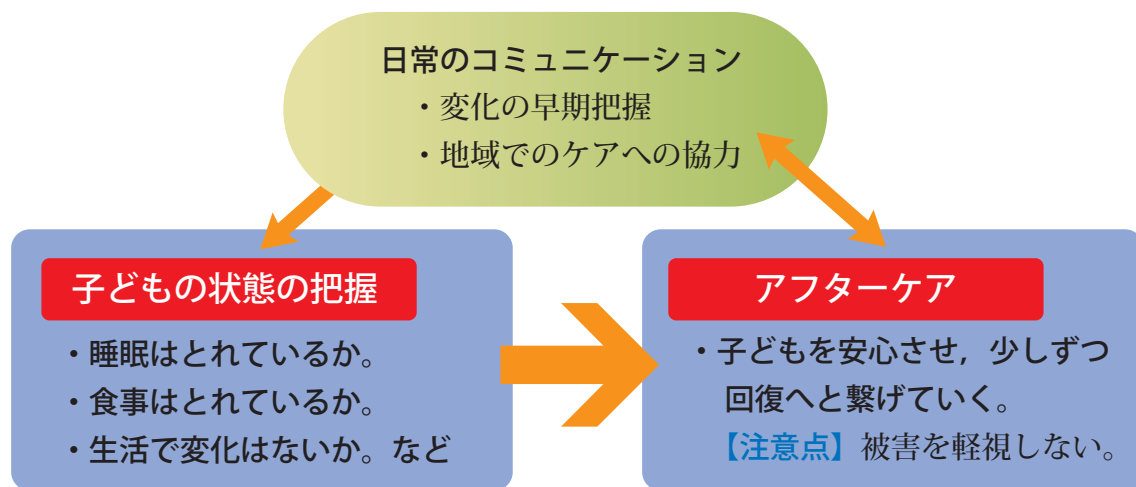
□□ ①犯罪にあった後の子どもの心理現象の具体例や、適切な対応について知っている。(フラッシュバック現象など)

□□ ②精神的、肉体的なダメージについてその種類や、適切な対応について知っている。(身体的虐待やネグレクトなど)

15

被害に遭ったダメージの度合いは本人だけが知るものであり、周りが決めつけるものではありません。どんな犯罪被害でも決して軽視をしてはいけません。

毎日の生活や登下校時など、普段から子どもの言動や様子に気を配り、日頃のコミュニケーションをしっかりとることが、被害後のアフターケアへも繋がっていきます。



子どもへのケアを理解しよう！

 **ビデオ教材** (ビデオ→ アフターケアについて)

※ビデオを見て、子どもへのアフターケアのポイントをまとめてみましょう。

Column

子どもと一緒に話し合う

心理教育とは、犯罪被害に遭った子どもと今後の回復方法を一緒に話し合っていくものです。「被害後に気持ちや体が辛くなる事は自然なことである。」「それは誰でも起こることである。」「心や体は少しずつ治って回復する。」と、子どもへ説明し気持ちを安心させていきます。

